

ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2008 について

今年度 2 回目を迎えたボランティアファンド学生チャレンジ賞（通称「ボラチャレ」）は、2008 年度については「明学生」「ボランティア」「地域貢献」をキーワードに、「明学生のボランティアによるキャンパスのある身近な地域での地域貢献活動」をテーマとして企画募集を行った。4 月 14 日から 6 月 6 日までに応募を受けつけ、結果として 13 団体から 14 企画の応募があった。昨年度初回は 2 団体 3 企画の応募であったことからみると、テーマの変更もあるものの、学生間に学生チャレンジ賞の存在が浸透しつつあることが伺えた。

6 月 21 日に公開審査会を開催し、各企画のプレゼンテーションを行い、その後開催された審査委員会（大西学長、梅田義明活動推進委員、センター長、センター長補佐）による審査が行われた。審査委員会では応募企画について、「明学周辺への地域貢献度」「その活動の波及効果」を中心に評価した。また当然ながら、その企画の独自性や先駆性ととも、実現可能性についてもあわせて評価した。結果として 5 企画のチャレンジ賞が選ばれ、最高 10 万円の奨励金が授与された。さらに受賞には至らなかったが今後への期待をこめて「チャレンジ期待賞」1 企画が、プレゼン参加者からの投票により「オーディエンス賞」1 企画がそれぞれ選ばれた。

今年度は「キャンパス周辺への身近な地域でのボランティア活動」が応募条件となっていることもあり、戸塚、白金のボランティアセンターにおいてフォローアップも含めて、受賞企画の実践への支援を行っていくこととなり、引き続き、それぞれのコーディネーターによるアドバイスやサポートを行うこととなった。また 11 月 19 日には「ボラチャレ中間報告会」が開催され、受賞 7 企画の活動中間報告が各団体によるプレゼン形式で行われた。この報告会では、ゲストとして「クリエイティブアート実行委員会」の小堺直子さんをお招きして、「コミュニティ・アート活動の可能性」についてご自身の学生時代のボランティア体験と現在の NPO としてのコミュニティ・アート活動について、実践家ならではのお話を伺うことができた。受賞団体同士の情報交流の場にもなり、このような受賞団体に対してのフォローアップの機会を持つことは重要であると思われた。

各団体の活動報告は次ページ以降掲載されているとおりであるが、今年度だけの活動にとどまらず、ぜひ今後も今回の企画を大事に育てて、地道な地域交流活動を展開し続けていただきたいと願っている。またセンターとしても、受賞活動の維持発展を応援し続けていきたいと思う。（茨木）